

(1) 調査の目的 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。		(2) 対象学年 ○小学校及び義務教育学校前期課程6年 ○中学校3年、及び義務教育学校後期課程9年		(3) 調査内容 ①教科に関する調査 ・小学校等【国語、算数、理科】 ・中学校等【国語、数学、理科】 ※英語（中学校等）は3年に一度程度の実施のため実施せず ②質問調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）		(4) 今年度調査の特徴 ※教科に関する調査は、国語、算数・数学、理科を実施 ※中学校理科は1人1台端末を活用したオンライン（IRT方式）で実施。IRTとは生徒の正答・誤答が問題の特性によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定する統計理論のことです。問題は全日程共通と実施 日により異なる公開問題、生徒ごとに異なる非公開問題があります。	
---	--	---	--	--	--	--	--

教科に関する調査結果と成果

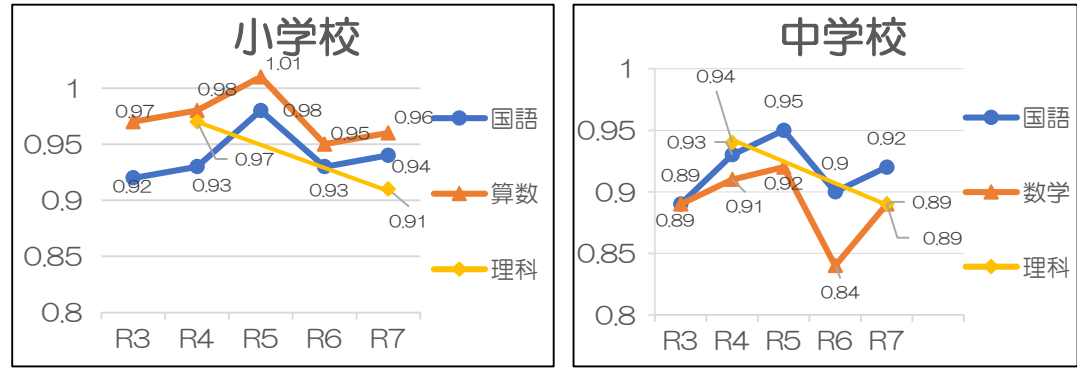
平均正答率（％）

小学校				中学校			
	貝塚市	大阪府	全国		貝塚市	大阪府	全国
国語	6 3	6 5	6 6.8	国語	5 0	5 2	5 4.3
算数	5 6	5 8	5 8	数学	4 3	4 7	4 8.3
理科	5 2	5 5	5 7.1				

※表中の「貝塚市」、「大阪府」、「全国」については、「貝塚市内公立学校」、「大阪府内公立学校」、「全国の公立学校」の平均正答率（％）を表しています。

対全国比の経年比較

貝塚市の平均正答率を全国の平均正答率でわり、全国の正答率を1（基準）としたときの貝塚市の数値を経年で比較しました。



成果

1.小中共に、国語・算数（数学）の正答率の対全国比が向上

小学校では国語0.93ポイントから0.94ポイントに、算数0.95ポイントから0.96ポイントに向上しました。中学校でも、国語0.9ポイントから0.92ポイントに、数学は0.84ポイントから0.89ポイントに向上しました。理科は小中ともに、低下していますが、中学校理科がIRT方式（右側上記参照）のため、以前実施したテストとの単純比較ができません。右側の中学校理科の内容をご確認ください。

2.自分の考えをまとめること

小学校では「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定的回答の割合が **85.2％** と、大阪府 **76.8％**、全国 **77.8％** を上回りました。中学校でも同様に肯定的回答は **76.5％** に達し、大阪府69.6％、全国**70.6％**を上回っています。授業の中でのふりかえり活動が活発になったことの結果で、授業の中で意識して取り組んでいる成果です。

3.発表に向けた工夫

小学校では「工夫して発表している」と答えた割合が **85.6％** と、大阪府 **82.4％**、全国 **82.9％** を上回りました。中学校でも肯定的回答は **81.0％** で、大阪府 **78.4％**、全国 **78.6％** を上回りました。児童生徒が自分の考えを整理し、資料や説明の構成を工夫する姿勢が定着しています。

4.授業への主体的な取組み

小学校では「自分から取り組んでいる」の肯定的回答が **87.2％** と、大阪府**84.1％**、全国 **84.6％** を上回りました。中学校でも **83.7％** と、大阪 **81.8％**、全国 **82.0％** より高い割合でした。授業中に主体的に課題解決へ向かう姿勢が学校全体に広がっています。

各教科の状況

○小学校国語

「我が国の言語文化に関する事項」は**77.3％**で、他の項目と比べて高く、伝統的な言語文化の理解についての結果は良好です。「話すこと・聞くこと」も64％で全国とほぼ同水準となり、基礎は定着しています。短答式問題は**75％**と全国を上回り、基礎的な理解や短い表現での回答に強みがあります。一方で「読むこと」は**52.3％**と低く、文章や資料を整理して理解する力に課題があります。また「思考力・判断力・表現力等」も**59.9％**にとどまり、複数の資料を比較して、意見を論理的にまとめる力が弱い傾向にあります。

○小学校算数

「知識・技能」は**63.9％**で全国並み、図形領域は**58％**と全国平均を上回り、計算や図形の基礎が定着・向上しています。選択式問題の正答率も高く、基礎計算力に強みがあります。一方、「思考・判断・表現」は**44.9％**と全国平均を下回り、文章題や応用問題に弱さがあります。記述式問題の正答率も低く、筋道を立てて説明する力が弱く、「文章題への対応力」と「説明・表現を伴う問題解決力」の強化が課題です。

○小学校理科

全体的に結果は低く、「知識・技能」は**49.7％**で全国平均との差も大きく、基本用語や知識の定着に課題があります。「地球分野」は**62％**と全国平均を下回り、天体や地層といった抽象的な内容に弱さが見られます。また、「思考・判断・表現」は**53.4％**にとどまり、観察や実験を根拠に考察する力が十分に育っていない傾向があります。さらに、記述式問題の正答率も低く、科学的に理由を説明する力や論理的に表現する力の不足が課題です。

○中学校国語

「読むこと」は**59.7％**で、他の項目と比べて高く、内容理解や要点把握は一定の水準にあります。しかし、国や府の結果には届いていないことから、さらなる改善が必要です。短答式など基礎的な問題においては、全国との差はほとんど見られません。一方で「言葉の特徴や使い方」は**41.7％**と全国を下回り、語彙や文法理解に課題があります。また、「話すこと・聞くこと」は**49.4％**、「書くこと」は**47.9％**と、表現力にも弱さが見られます。

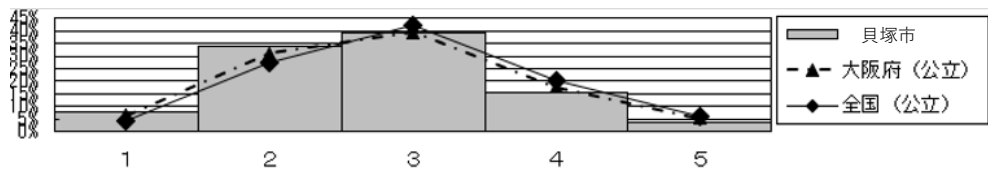
○中学校数学

基礎的な計算や知識を問う問題は全国とほぼ同水準で差は見られません。選択式問題の正答率は比較的高い得点率を示しています。一方で「思考・判断・表現」を要する問題は**33.5％**となり全国を下回っています。特に記述式問題の正答率において全国との差が大きく現れました。数学的な根拠を示して説明したり、複数の情報を組み合わせて解決したりする力に課題があります。

○中学校理科

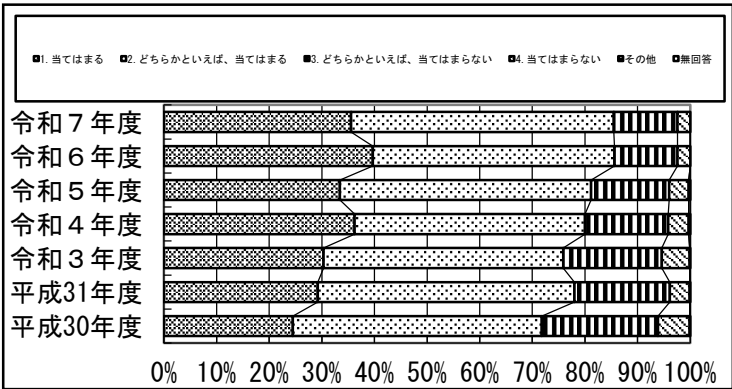
平均正答数は2.6問／6問で、全国 2.9問より0.3問低く、基礎知識の定着に課題が見られます。IRTスコア分布では、大阪府や全国との大きな差は見られないため、全体として基礎的知識は一定程度定着しており、理解度の分布も全国と近い水準で安定しています。

中学校理科	平均正答数			
	貝塚市	大阪府	全国	
	2.6	2.7	2.9	
平均IRTスコア		468	487	503



小学5年生（中学1、2年生の時）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

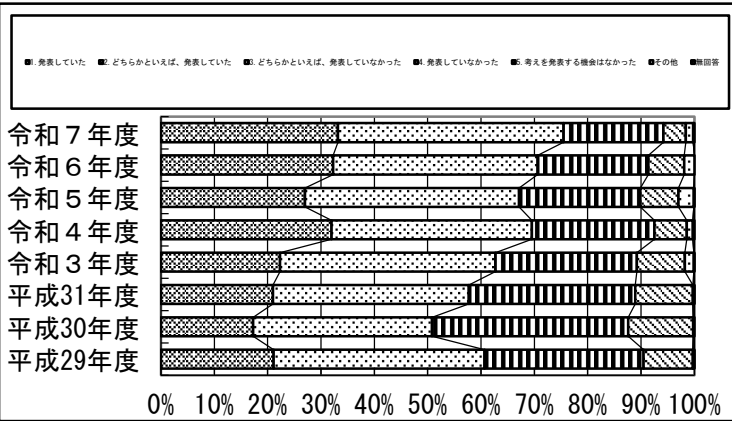
小学校



小中ともに、肯定的回答の割合が約80%を超えています。児童生徒が課題を主体的に解決しようとする姿勢が着実に育っています。

小学5年生（中学1、2年生の時）までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表しましたか？

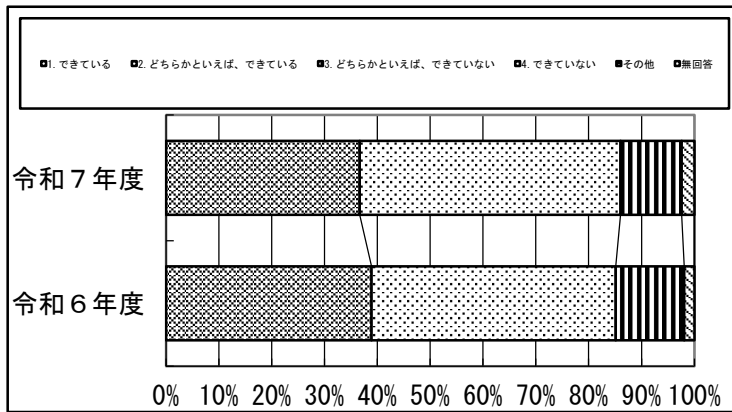
小学校



年々、肯定的回答の割合が増加しています。昨年度より力を入れて取り組んでいる発信力・表現力の意識が高まっています。

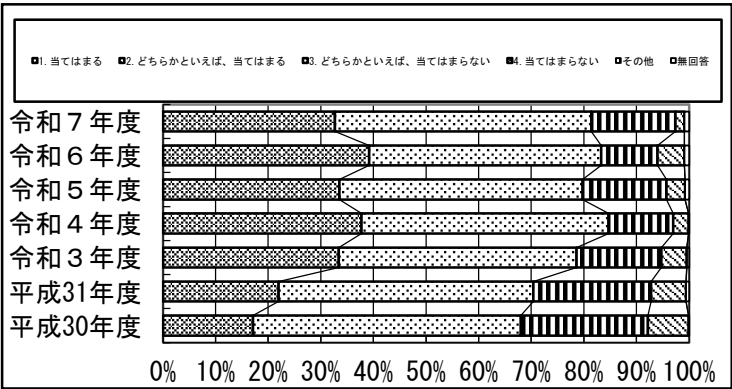
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学校

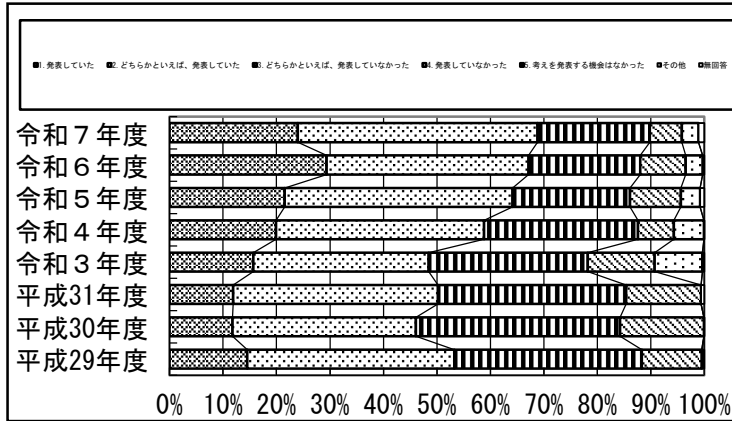


小中ともに、肯定的意見が80%を超えています。学び方を自分で考えるためには、その過程を評価し、認めていくことが不可欠です。授業改善をこの視点で取り組んでいる成果だと考えます。

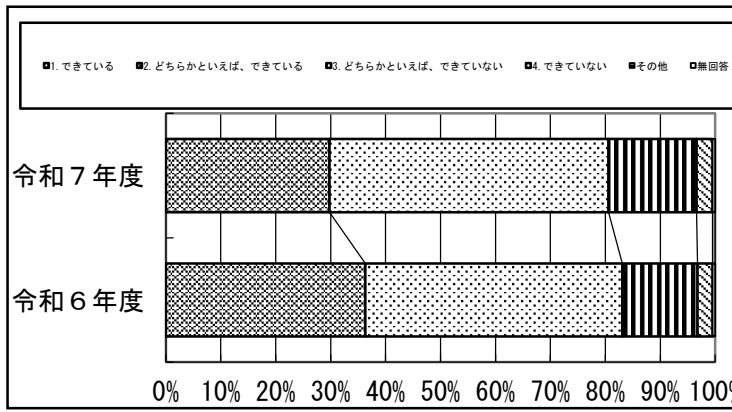
中学校



中学校

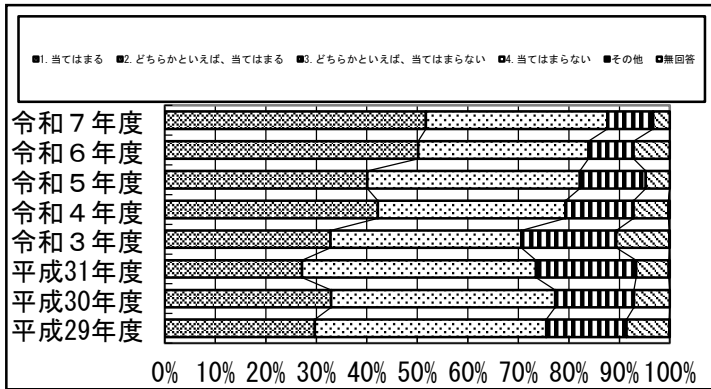


中学校



自分には、良いところがあると思いますか。

小学校



貝塚市では、本市で育ったことを誇りに思ってもらえるようにと様々な取り組みを行っています。その一つとして自分の良いところを認めていけるように日々先生方が声かけしていますが、この部分に成果が出ています。今後も非認知能力（学びに向かう力、人間性等）の育成を意識し、進めていきます。

今後に向けて

全国学力・学習状況調査は、児童生徒の学習状況を把握・分析するための1つの手段です。子どもたちに育成すべき資質・能力をつけることができているのかをこの調査で検証します。

今回の分析結果を学校・家庭・教育委員会で共有するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させるために、以下の内容を中心に今後の授業づくりに取り組んでまいります。

○児童生徒が、自ら学び方を工夫し、課題の解決に主体的に取り組む力をさらに育成するため、授業の中で探究的な学びを推進します。特に、自分の考えを整理し、根拠をもち発表する活動を重視し、データリテラシー（データを適切に使う能力）を含む表現力・発信力の向上を図ります。

○読解力の育成を重点として取り組みます。具体的には、読書活動を基盤にしたビブリオバトルの実践や、言語能力を育む取組みを通じて、文章の要旨や意図を的確に捉える力を高めていきます。

○子どもたちの学校での学びや取組みの様子を、保護者や地域に向けて積極的に情報発信し、ICTも活用しながら家庭・地域との連携をさらに深めていきます。学校外との協働により、学びの広がりの実社会とのつながりを強めます。

○子どもたちが未来を切り拓いていく力を育むため、生成AIを教育活動の中で積極的に活用していきます。安全性や情報モラルを大切にしながら、「個別最適な学び」につなげる取組みを行います。

○人権学習で学んだことを自分ごとで捉え、行動に移す力を育成するとともに、非認知能力の育成にも力を注ぎ、自己有用感や自己肯定感を高めることで、挑戦意欲や粘り強さを育みます。その基盤の上で、知識・技能の確実な定着を図り、児童生徒一人ひとりが「自ら学び続ける力」を伸ばしていけるよう支援していきます。

児童生徒質問紙調査の結果は、子どもたちの日々の学びや生活の姿を把握するうえで欠かせない重要なデータです。ここでは、市の取組みと関わりの深い項目を中心に、成果と課題を整理しました。

今年度の成果として、児童生徒が自ら学び方を工夫し、課題に主体的に取り組む姿勢や、ICT機器を授業の中で日常的に活用する取組が大きく前進しました。さらに、自分の考えを整理し、根拠を示しながら説明・発信する力も着実に高まっています。これらの力は、仲間との協働的な学びを通してさらに磨かれており、今後の教育の大きな基盤となるものです。

グローバル化や技術革新が加速する現代において、子どもたちが未来を切り拓くためには、実社会で生かせる知識・技能に加え、未知の課題に挑戦し克服する力が不可欠です。自己肯定感や自己有用感を伸ばし、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばす教育を、学校・家庭・地域が一体となって推進し、子どもたちが自信を持って未来を創造できるよう取り組んでまいります。